

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092500077		
法人名	社会福祉法人 高瀬会		
事業所名	グループホーム「湯ごりの郷」Aユニット		
所在地	和歌山県東牟婁郡那智勝浦町湯川61番地		
自己評価作成日	平成27年1月30日	評価結果市町村受理日	平成27年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成27年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症であっても一人ではできない事でも誰かがそばにいてくれればできることはたくさんあります。いつも一緒にいてくれる人がいて、安心して過ごせるよう心掛けて支援しています。自分らしく、尊重されながら過ごすということはどういうことか、本人にとって大切な事、場所、物が何かを話し合っています。毎日の入浴では温泉浴を楽しんでいただき、日々、活動的、健康的に過ごせるように努めています。また看護師の協力を得て健康状態の管理にもアドバイスをいただいています。笑顔で過ごせる状態はご本人にとって、とても良い状態であると考えます。ホームにかかわるすべての人が笑顔でいられるよう「笑顔あふれるホームづくり」がグループホームの目標です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の福祉拠点となっている母体法人の複合施設に併設されており、開設7年目を迎えている。管理者・職員共に家庭的な雰囲気を大切にしており、一人ひとりに合った楽しみとなる部分を見つけて取り組み、生活の中で生き甲斐を持って貰い、笑いの絶えない日々が送れる様にと真摯に取り組んでいる。さらに上に向けて今後が期待されるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔あふれるホーム作りを理念に、ご利用者が安心して過ごせるためにどうしたらよいかを話し合っている。迷ったときは、ご利用者にとって一番良い支援は何かを考えて対応できるように心がけている。	毎日を笑顔で過ごして貰おうと理念に掲げている。管理者・職員共に実践にむけて取り組んでおり、理念を具体化する為に会議やミーティングで話し合いを重ねている。職員も常に笑顔で接することが出来るよう、自身のコンディションの維持を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やご本人が楽しみにしている地域のお祭りなどに積極的に参加している。町民音楽祭や福祉祭りなどに参加し地域の方々と交流している。盆踊り大会は地域の方々もたくさん参加していただいている。	地域のお祭りや町民音楽祭などの行事には積極的に参加しており、地区長が中心に様々な協力が得られ良好な関係にある。又、法人の盆踊り大会は地域のイベントとして定着している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職業体験や見学などさまざまな訪問を受け入れています。事業の理解や認知症の方の理解を深めていただけるよう取り組んでいます。認知症サポーター講座にも協力できます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の入退所の報告や活動の写真などを通じて会議で報告しています。事業所の課題や個別のケースなどについて今後も話し合っ委員の方の意見を参考にしていきたいと考えています。	運営推進会議は2か月に1回、区長・老人会代表など地域代表と家族代表の参加を得て開催しており、利用者の状況報告や取り組みについて報告し、事業所の課題等についても話し合いの機会を持っている。	地域の理解・協力を得て運営推進会議が開催されているが、家族代表が固定化してしまっている。他の家族にも会議の開催を周知し参加を依頼したり意見を募る等取り組む中で、議事内容を充実し、より一層意義のある会議を開催し運営に活かされる事が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の入所状況の報告を行っており、事業運営で相談のあるときは担当者と話し合っています。運営推進会議にも足を運んでいただいております。	市町村担当者とは日頃から連絡を取りあっており、情報交換を行うと共に相談や助言を受ける等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を定期的に行っています。実際に身体拘束はありません。心理的にも束縛感のない生活にしているよう話し合っています。	身体拘束について、職員の理解は十分になされており、拘束をしないケアに取り組んでいる。又、管理者・職員共に鍵をかける事の弊害を十分に理解する中で昼間は開錠し自由に出入りできる様にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止や権利擁護、人権などについての研修の機会があり、虐待防止に努めています。言葉使いや基本的なマナーを守ることの大切さを繰り返し話しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業を利用されているご利用者もいます。今後制度の利用が必要な方については、早い段階で説明するように努めている。制度の理解については深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には十分説明をおこない、ご理解いただいてから実施している。解約や改定の場合も同意をいただいて実施している。不明な点についてはいつでもご相談いただくよう伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族やご本人からの意見、要望についてはその都度対応させていただいている。いただいた意見、要望については可能な限り対応させていただくようにしている。職員が聞き取った苦情や要望を報告する体制があります。	家族には来訪時等に意見や要望を出して貰える様に言いやすい雰囲気作りに努めている。職員が受けた要望等はマニュアルに添って対応しサービス向上に反映させる仕組みを作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的に事業に必要な物品や体制について職員と意見交換している。毎月の会議の中でも職員からの意見や提案を問いかけている。自発的な意見や提案は尊重するようにしている。	職員自身からの意見表出を重視しており、各ユニット内で話し合ったり、ミーティングや会議では積極的な意見が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々についてその能力や業績、状況を人事考課制度で評価しています。処遇改善交付金も申請を行い労働条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修については可能な限り職員が参加している。外部研修は職員個々の経験や能力に応じて研修に参加している。職員の資格取得についても助言できる環境にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他の事業所と連携しお互いの業務や事業を理解することにより互いの良いところを取り入れていけるように努めている。他の事業者との交流は少ないが地域ケア会議には参加することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時はご本人の生活環境が変化するためご本人が一番安心して利用できる方法をご本人ご家族、居宅事業者などと相談しながら進めている。できるだけ事前に情報を得てご本人の不安な部分に対応できるよう検討している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの導入時が最も信頼関係を構築するのに重要な時期であると考えています。ご家族の要望をうかがいながら提供できることや相談の必要な事など十分話あう機会を持つように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に際してご本人、ご家族にとって適切な段階であるかどうか担当のケアマネジャー等とも相談して必要性を検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の場面で一人ではできなくてもだれかがいればできることはたくさんあります。利用者の得意なことは、職員が教えていただくようにして共に暮らす関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも可能な範囲で協力していただけるところはお願いしながらご本人との関係が保てるように努めています。ご本人への支援についてご家族とも相談しながら進めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大切にしている事についてはご家族の協力を得ながら継続できるように努めています。地元の祭りや行事などは特に意識して参加できるようにしている。会にいたり会いに来ていただいたりしています。	家族の協力を得て馴染みの美容院に行ったり、本人が大切にしてきた地元の祭りや行事に積極的に出かけたりしている。又、お礼の電話をかけたり手紙を出す事を支援する等、これまでの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士のコミュニケーションについては個々の状況に合わせて職員が支援しています。関係性が保たれるように職員が間に入ってフォローしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後でも、ご本人の様子やご家族の相談を受けられるようにその後の状況を確認しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを私の想いシートに記入して意向の把握に努めています。日常生活の希望については柔軟にその都度対応しています。	一人ひとりの思いや意向をより詳細に把握する為、担当職員が「私の気持ちシート」を用い、書き込んでいる。日常生活の中で具体的な希望が出された時は優先して本人の希望に添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際にご家族に今までの暮らし方、生活習慣などを確認しご本人の望む生活が継続できるように努めています。自分史の作成など継続して取り組んでいきたいと考えています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の日課表や24時間シートを活用してご本人の一日の過ごし方などを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画はご本人の意向をもとに職員全員で話し合い、共有しています。現状の課題、ご本人にとって何が必要かを話し合っってプランにしています。ご本人、家族の希望も盛り込めるように聞き取りをしています。	介護計画は本人の希望や家族の意向、関係者の意見等を取り入れ、話し合いを持つ中で作成している。課題のみを捉えるのではなく、日々の生活の中で楽しみにしている事や取り組んで貰えそうな事も盛り込み、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にそれぞれの目標をつけており、その日の気づきや様子を書き込み、記録しています。記録の内容については充実させていけるよう話し合っていくことが必要と感じています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズについては、日課や業務にとらわれないようご本人のタイミングを尊重して対応するように話し合っています。個別の意向への対応の充実はさらに努めていく必要があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	参加できる地域の活動や資源についてはご本人の希望を図りながら参加したりしているが、もっと活用できるような機会を作りたいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の状態を考慮してご本人、ご家族と相談して受診を決定している。ご本人の必要な医療、診察が受けられるようご家族にも協力していただきながら対応している。	本人及び家族の希望する医療機関を優先して受診できるよう支援しており、内科医の定期的な往診も受けている。家族の協力も得て連携を図る中で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携体制を取っており、ご利用者の状態を相談できる状態である。状態の変化や気になることがあれば看護に相談できており、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の医療機関、連携室などには入退院の際には連絡を取り合っておりご利用者の状態を報告したり退院の調整を行ったりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際には重度化した場合の指針を説明しご家族の意向をうかがうようにしている。事業所として対応可能なこと困難なことを説明し、必要な段階においてはご家族と相談することとしている。	重度化した場合や終末期の対応については契約時に文書で説明し、理解して頂いた上で意向を確認している。重度化した場合には、医師の指示を仰ぎながら関係者で話し合いを重ね、看取り等の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の基本的な対応はマニュアルにより確認し定期的に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を年2回実施している。災害発生時の地域との防災協定も結んでいる。地震発生時の対応について防災計画の見直しを行っている。非常備蓄用品も備えている。	年2回消防署の立会いによる合同避難訓練を実施し、館内での協力体制を確認している。地域消防団とは災害発生時の防災協定も結んでおり、非常時の備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者だれもが尊重されて生活することを最も大切に行動できるよう職員と話し合っている。言葉使いや声掛けの方法などがその表れであり、乱れがないか繰り返し話し合っている。	プライバシー保護や権利擁護等については、十分に研修を重ねており、職員は利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねない丁寧な言葉かけや対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で実現したいご本人の希望については職員が聞き取りながら対応しているが意見が少ないように感じている。活動への参加などはご本人の意思確認を行い、意思決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常では一人一人思い思いに過ごされているが、その人らしい活動やどのように過ごしたいかなどについては支援が必要であり、個々のかかわりを充実させていきたいと感じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい装いや好みのヘアスタイルなどについてはご家族と相談して行きつけの美容室に通うなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や簡単な調理については積極的に参加していただけるようお願いしている。楽しい雰囲気が保てるように職員も一緒になって食卓に付きコミュニケーションを取っている。	法人の管理栄養士が献立を作成し、各ユニット毎に調理されている。利用者は野菜の下ごしらえ等可能な部分で参加しており、たこ焼き等のおやつ作りも楽しみに行っている。又、菜園で収穫した野菜を調理したり、お茶や干し柿を作ったりと季節を味わいながら楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状態に応じて食事形態を変更して対応している。食事量や水分量など一日の摂取量を記録して把握している。栄養バランスについては栄養士がアドバイスしてくれている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては個別の状況に応じて、清潔保持を支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排尿パターンや間隔を確認してトイレでの排泄を支援している。使用するパットの形態などもご本人の状態にあったものを検討している。ご本人の気持ちを大切に支援している。	一人ひとりの排泄記録から排泄パターンを把握している。本人の気持ちを重視し、本人が負担にならない対応方法を繰り返し話し合いながら出来るだけトイレでの排泄ができる様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、食事、活動が便秘の予防には不可欠です。体調やご本人の訴えに応じて水分摂取を勧めている。排便の間隔を確認して服薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施しており、ご本人のタイミングを見ながら声をかけて入浴していただいている。入浴の声掛けのタイミングや方法を個々に配慮しながら支援している。	一人ひとりの希望に添って入浴を楽しめる様に個別に工夫を重ねており、拒否される利用者についても本人のペースに合わせて声掛けのタイミングや方法を話し合っ支援している。又、柚子風呂など季節感を味わうと共に温泉を十分に楽しんで貰える様に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中などについてもご本人の体力や体調に合わせて休めるようにしている。今までの生活のペースでゆっくり就寝される方など個々の状況に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルで服薬の状況が確認でき、ご利用者の服薬を職員は把握するように努めている。服薬支援の手順を定期的に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの趣味や特技、好きなことなどを参考に楽しみが持てるような活動を支援している。楽しみな活動ができるよう取り組みを充実させていきたいと感じている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩などはその日の希望に応じて出かけられるように努めている。買い物や地域の行事へ出かけることもある。テラスの散歩を毎日日課にされている方もおられ気分転換ができています。	ドライブを兼ねた食材等の買い物は月に1~2回、季節によりコスモスを見に行ったり、茶摘みに出かけたり、裏の畑で芋類を収穫したりしている。日常的には希望に添って近隣へ散歩に出かけたり、季節の花や野菜を育てているテラスに出て、楽しみながら散歩できる様に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	ご家族と相談して希望があればご自身の好きなものを自分自身で買えるように努めている。状態に応じてはご自身で少額管理していただくことも可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人に荷物が届けばご本人自らお礼の電話を入れたり、手紙を出したり、やり取りができるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた雰囲気与生活ができるように色合いや光などを調節している。共用空間でもご本人のくつろげる空間を確保するためにソファなどの家具の配置を検討している。	共用スペースは落ち着いた雰囲気、窓外の樹木の緑や所々に飾られている季節の花が潤いを添えており、居心地良く過ごせる環境である。さらに個々にくつろげる空間を確保する為にソファ等の購入を検討している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の落ち着く決まった場所で過ごされる方もおられます。自然とコミュニケーションが発生していますが、もう少しそのような場所を増やしていきたいと考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人のプライベートな空間であり、ご自身の居場所としてご本人の大切にしているものを持ってきていただけるようご家族と相談して働きかけている。	居室には利用者の好みのクッションや使い慣れたミニ筆筒、家族との写真など大切にしている物を持ち込んで居心地良く過ごせるような落ち着いた雰囲気となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリーになっておりご利用者が自由に行き来して思い思いに過ごせるようにしている。場所の理解が困難な方については職員が必要に応じて声をかけて誘導、支援している。		